

平成 20 年度(第 31 回)校内放送指導者講習会 報告

神奈川県立横浜修悠館高等学校

吉田 健一

日時：平成 20 年 12 月 26 日（金）、27 日（土）

会場：千代田放送会館

URL：http://www.nhkk.or.jp/ncon/ncon_h/index.html

全国放送教育研究会連盟・日本放送協会主催、日本放送教育協会共催による「第 31 回校内放送指導者講座」が開かれ参加してきました。

講座 1 顧問交流「放送部顧問として」

参加の先生方が 11～12 人の 10 班に分かれて、日頃の活動報告や指導法の悩みやヒントを話し合いました。顧問暦により初任の方からベテランまでうまく構成されていて、様々な貴重な情報交換が出来ました。参加した各班の報告の概要は、「NHK 杯全国高校放送コンテスト」のページ（URL：http://www.nhkk.or.jp/ncon/ncon_h/index.html）内の校内放送指導者講座報告にありますのでご覧下さい。

講座 2 実践発表「毎日、放送する」 岩手県立盛岡第一高等学校 菊地 達也 先生

「お昼の放送」に絞ってのお話しでした。全国大会で決勝まで進んだ TV ドキュメンタリー番組の（新入生に入学後 7 週間で、応援団が校歌と応援歌を教え込み、体育祭を通して新入生を一高生に変えていくという）学校紹介ビデオから始まり、途中、卒業生 3 人による「お昼の放送」の実演も含めた発表でした。

毎日お昼の放送をするとだいたいの問題は解決するのではないか。1 日あたり 17.4 分のお昼の放送を、今年は 172 回やる見通し。そうすると 1 年間に 50 時間。これを始めたのは 2001 年、菊地先生が盛岡一高に転勤して、毎日お昼の放送をやればコンテストは通ると思ったそうです。毎日本番を経験させたら、だいたい毎年全国大会に行ける。日々の原稿がコンテストのアナウンス原稿になっていく。

また、取材を続けることで雑弾力が伸びることで取材力が向上する。放送部員の自覚もそうだが、校内における放送部の認知だけでなく、校内の様々な事が認知されるようになり、学校の一体感が生まれてきた。

講座 3 「古典作品の朗読」

アナウンサー 加賀美 幸子

古典作品の朗読について加賀美アナウンサーに『源氏物語』の幾つかの場面の原文朗読を実演しながら語ってくださいました。

5 5 大会の朗読部門準決勝で古典（『源氏物語』『桐壺』の巻）を発表した4人の出場者の朗読を会場で聞いて、加賀美さんにコメントいただきました。「言葉を流れさせないよう、ゆっくりと」「切り切らず（息は切るが意味は続いている）を使いこなせるように」「上手にすらすら読みすぎると、かえって意味が逃げてしまう」「うたう読みにならないよう、自然に」など、具体的な指導や審査のポイントを示してくださいました。

「読みの速さ」については、ただ「ゆっくり」ではなく「心を深く」「響きを伝える」読みを心がければ、自然とその作品の息づかいに沿った適切な速さになっていく、と重ねて話されました。発音やアクセントなどは表現を支える根底の要素としてきちんと身につけ、その上で文章の息づかいを我がものとしてもらいたい。響きが6、意味は4であるという日本語の言葉の美しさを生かせるよう、原文に向かい合うときには、意味の解釈に傾きすぎないでもらいたい。こういったアドバイスは、実際に加賀美さんがどう読まれるかを聞くことによって、大変説得力のあるものとなりました。

講座4 「高校生とドラマ」 脚本家・作家 竹内 日出男

今年の決勝大会で審査をしてくださった脚本家・作家の竹内先生に「高校生とドラマ」というテーマでお話を伺いました。決勝大会に審査された作品についても話していただき、作品作りの様々な工夫の仕方について話されました。

「先生の役割は、皆をやる気にさせる『プロデューサー』。生徒たちのアイデアをどんどん取り入れて交通整理をして、チームの力を100%出させてください。『作るのは君達』先生は子供の個性や生き生きとした発想を殺さないで鼓舞してあげてほしい。」

徹底的にディスカッションをする。（今の子たちは話し合いは出来ない。思っていることは沢山あるのだが、それを引き出させるには。）

講座5 「高校生のアナウンス・朗読 ―どう指導するか―」

NHKアナウンス室次長 渡部 英美

NHK放送研修センター 中川 富雄

講座6 「ラジオ・ドキュメント審査講習」

講座7 「ラジオ・ドキュメント制作講習」

NHK製作局第一製作センター学校教育番組部 チーフプロデューサー 市谷 壮

講座5はアナウンサーをお二人、講座6と7は学校番組を制作されている方をお招きしてお話を伺い、現行の作成から、生徒への指導の仕方などの話をいただき、模擬審査も行いながら技術指導や審査の視点を様々な角度から研修しました。

概要は「NHK杯全国高校放送コンテスト」のページ（URL：http://www.nhkk.or.jp/ncon/ncon_h/index.html）内の校内放送指導者講座報告にありますのでご覧下さい。